

令和3年度 管理運営評価シート

施設名	淡路夢舞台国際会議場	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	株式会社夢舞台	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	安全で快適な利用を確保するため、日常清掃及び定期清掃を行う	施設利用者の妨げとならない清掃時間・頻度を実施した。新型コロナウイルス感染予防のため、椅子・テーブル、手すり等の消毒・除菌を入念に行った。	◎	◎
	設備保守管理	施設を安全かつ安心して利用できるよう、予防保全に努め、建築物や設備等の不具合を発見した際には、速やかに県に報告を行う	定期保守点検等により施設の予防保全に努めるとともに、建築物や設備等の不具合がないかを日々の業務において確認した。	◎	◎
	植栽管理	敷地内の除草・剪定、樹木管理等を行い、美観を保つ	定期的な植栽管理の実施により、自然豊かなリゾート地にふさわしい美観を維持した。	◎	◎
	警備	事故、盗難等の発生を警戒・防止するとともに、利用者の安全を守るための保安警備業務を適切に行う	24時間常駐警備員によるモニター及び巡回による監視を行い、利用者の安心安全の確保に努めた。	◎	◎
	小規模修繕	日常の保守点検に基づき、必要に応じて実施する	令和2年の大規模修繕以外の設備機器の故障等が増えているが、計画的な修繕を実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	法定点検の実施	各種法令により義務付けられた点検を適正に実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日(12月29日から1月3日まで)を除く、9時から21時まで	緊急事態宣言発出に伴う県からの要請により、臨時休館(4月25日～5月11日)を実施した。	◎	◎

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
運営業務	公共性・公平性の確保	利便性の向上	ホームページをスマートフォン対応ページにリニューアルした。利用者に必要な情報をわかりやすく提供するとともに、SSL（通信暗号化）を採用し、セキュリティを向上させた。 また、利用申請に係る押印不要やオンライン化により、利用者の負担軽減を図った。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	利用促進、施設広報の実施	過去の利用者へのアプローチや、WEB 会議機材及び感染対策備品等の貸出キャンペーンを展開した。 また、地元フィルムオフィスと連携し、安藤忠雄建築の魅力を生かした撮影場所としての利用を促進し、施設の知名度向上に努めた。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者に対して、施設・備品・運営に関する要望等のヒアリングを実施	利用時だけではなく、利用後もフォローを実施し、継続利用の依頼に努めた。 収集した情報を課内で共有し、問題点は改善に努めるなど、日々、顧客満足度の向上に努めた。	◎	◎
利用状況	利用者数（実数）	国際会議 20 件、4,000 人 国内会議 330 件、21,000 人 合計 350 件、25,000 人 [昨年度：261 件、7,278 人] 【参考（コロナ前）】 [H30 年度：385 件、25,025 人]	国際会議 6 件、1,328 人 国内会議 257 件、23,359 人 合計 263 件、24,687 人 会議件数は、コロナの影響により低迷するも、ハイブリッド会議プラン（オンライン+リアル）等の新たな需要に対応した取組みにより、利用者数はコロナ前と同程度の実績となった。	○	○
	施設稼働率	メインホール稼働率 30% [前年度：6.3%]	メインホール稼働率12.9%。 コロナの影響により、大型会議は多くがキャンセルとなったが、法人の研修利用等の誘致により、稼働率はR2年度より改善した。	△	△

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
収支状況	収支計画と実績	収支計画と実績の比較 収入予算：219,105千円 支出予算：219,105千円	収入実績：211,552千円(対 予算△7,553千円) 支出実績：211,552千円(対 予算△7,553千円) コロナ禍で利用キャンセル が続く中、ハイブリッド会 議プラン(オンライン+リアル)等 の利用促進による収入確保に 努めた。	○	○
	経費節減に向けた取組	職員のコスト意識のもと、 省エネ対策等の経費節減に 努める	利用者へ配慮しつつ、共用 スペースの照明区分の細分 化、こまめな点消灯、春秋期 の空調機の停止などにより、 光熱費の削減に努めた。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	各種トラブル、苦情には迅速 に対応し、利用者の要望 には適切に管理運営に反映 させるよう努める	誘致担当、会議支援担当が 連携・協力し、利用者の苦情 要望等について情報の共有 や協議等の対応を迅速に行 い、運営体制の向上に努め た。	◎	◎
	危機管理体制の確保	予防対策として、危機管理 体制を構築するとともに、 災害時の対応について訓練 を行う	夢舞台施設全体の統括防火 防災管理体制のもと、国際 会議場地区隊を組織し、防 災委員会による協議他、各 種訓練を実施した。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県、関係機関と適宜連絡調 整を行い、円滑な運営を図 る	必要に応じ、適時適切に連 絡調整を行い、円滑な運営 に努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	業務の再委託の状況	設備維持管理に必要な定期 保守点検、清掃、警備、植栽 管理等については、再委託 を実施した。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大による国際会議・各催事の中止・延期の影響を受けたが、以下の施設面、運営面での取組みにより、目標に近い収益を確保した。

施設面では、感染防止対策を徹底するとともに、日々の適切な維持管理・設備改善による安心安全な施設管理に努めた。

運営面では、近隣企業の研修や医科系学術会議、ワクチン職域接種会場の誘致のほか、医療機関レベルの高性能空調システム(HEPA フィルター)導入や映像・音響機器等の更新(R2年度)、オンライン会議用備品の充実とハイブリッド会議プラン(オンライン+リアル)の造成(R2~3年度)、高速インターネット環境の確保(ひょうご情報ハブ接続)(R3年度)など、With コロナ時代の新たな会議需要に対応した設備環境を広くPRし、集客回復に取り組んだ。

今後も、当会議場設備の強みを生かし、顧客ごとのニーズにマッチした最適な提案・サービスの提供に取り組む。また、大阪・関西万博や海外からの渡航制限緩和の動きも踏まえ、リゾート立地の特性を活かしたMICE案件、国際会議の誘致等に努め、大阪湾ベイエリアにおける国際交流拠点として、利用拡大と収益の安定化を図る。

令和3年度 総合評価シート

評価者：企業庁総務課

施設名	淡路夢舞台国際会議場	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	株式会社夢舞台	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

前年度に続き、年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用予約の大半が中止・延期、会議件数はコロナ前（平成30年度）の7割程度となった。

厳しい状況下であったが、近隣企業の研修や医科系学会等の誘致活動を粘り強く積み重ねるとともに、コロナ禍での新たな会議需要の獲得に向け、高性能空調システム(HEPA フィルター)導入 (R2 年度) などの安全・安心対策に加え、オンライン会議用備品の充実とハイブリッド会議プラン (オンライン+リアル) の造成 (R2～3 年度)、高速インターネット環境の確保 (ひょうご情報ハブ接続) (R3 年度) などに着実に取り組んだ。その結果、利用人数はコロナ前と同程度を確保するなど、集客回復に向けた努力と一定の成果が認められる。新型コロナによる人流抑制等の影響が収束すれば、利用率のさらなる改善が期待できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

今後も新型コロナウイルス感染症の影響が一定続くものと予想されることから、安全安心対策の徹底、新たな機能 (WEB 会議機器の完備や通信環境強化) を活用したハイブリッド会議プランの販売促進 (PR 強化、体験キャンペーン等)、経費の更なる節減等に取り組む必要がある。

また、当会議場は、都市型の会議施設とは異なり、滞在型会議をメインターゲットとしたリゾート&コンファレンスセンターであるため、隣接ホテルとの営業面での連携を図ってきた。令和4年度に入って人流抑制が解除され、ホテルの利用率も回復に向かっていることや海外からの渡航制限が緩和されつつあること、さらには大阪・関西万博等も踏まえ、ホテル部門と連携し、島内エクスカージョンなどリゾート立地の特性を活かした MICE 案件、国際会議の誘致等にも注力していく必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
A				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である